

華誠の知的財産権ニュースレター



2021年09月 第五十三期

目次

華誠の動向

華誠が「Asialaw Profiles」2022年度知的財産権分野ランキングにランクイン 2

特許

国家知識産権局、2020年「一带一路」沿線国における中国の特許ポートフォリオは逆成長の情
..... 2

- 一、中国は沿線国における特許出願と授権の増加を両方実現 2
- 二、 デジタル通信分野が沿線国における中国の特許出願の技術分野でトップに 3
- 三、 沿線国における中国の特許出願ポートフォリオのトップランナーは依然として通信分野に
集中 4
- 四、「一带一路」沿線国は中国での特許ポートフォリオを強化 4

知的財産権

「2021年グローバル・イノベーション・インデックス報告書」を発表 5



公式サイト：www.watsonband.com

Eメール：mailip@watsonband.com | mail@watsonband.com

華誠の動向

華誠が「Asialaw Profiles」2022 年度知的財産権分野ランキングにランクイン

9月7日、国際的に有名な法律格付け機関「Asialaw Profiles」が2020年度アジア太平洋地区ランキングを発表した。華誠は20年余りの知的財産権分野における専門的なサービスと優れた業績により、再びこの分野の「認められた事務所」(Recognised Firm)のランキングを獲得した。

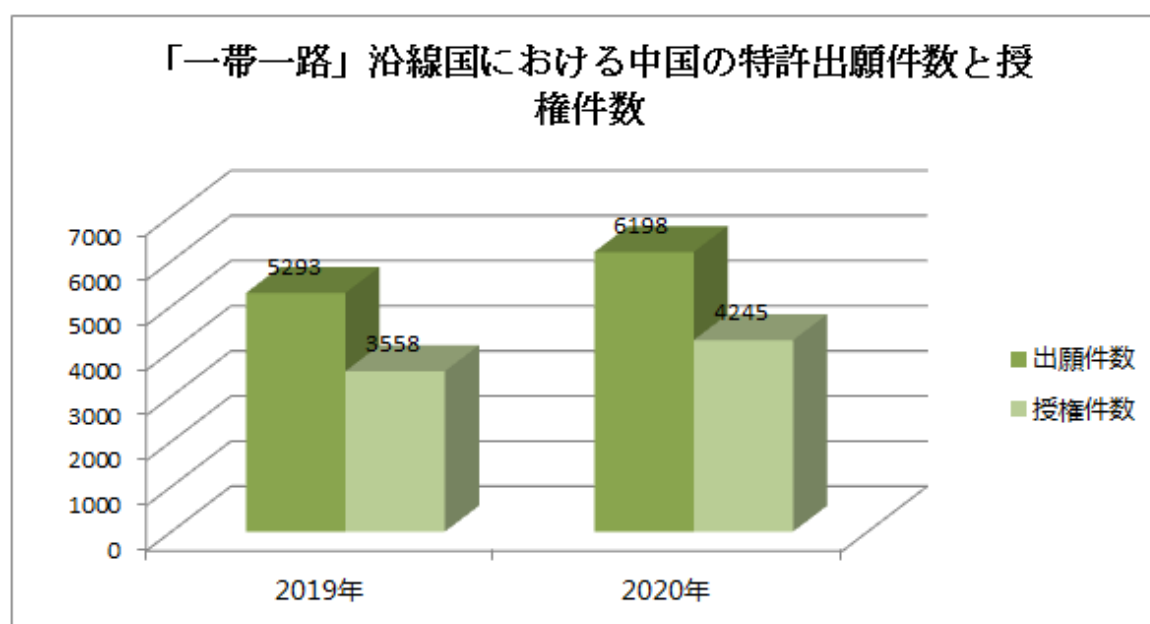
「Asialaw Profiles」は有名な法律メディアグループ (LEGAL Media Group) 傘下の専門格付けガイドで、アジア及び太平洋地区の法律と実務に焦点を絞り、すでに長年連続して、客観的で深い調査研究に基づいて、相応の法律分野と専門分野の法律事務所と弁護士の推薦ランキングを発表している。

特許

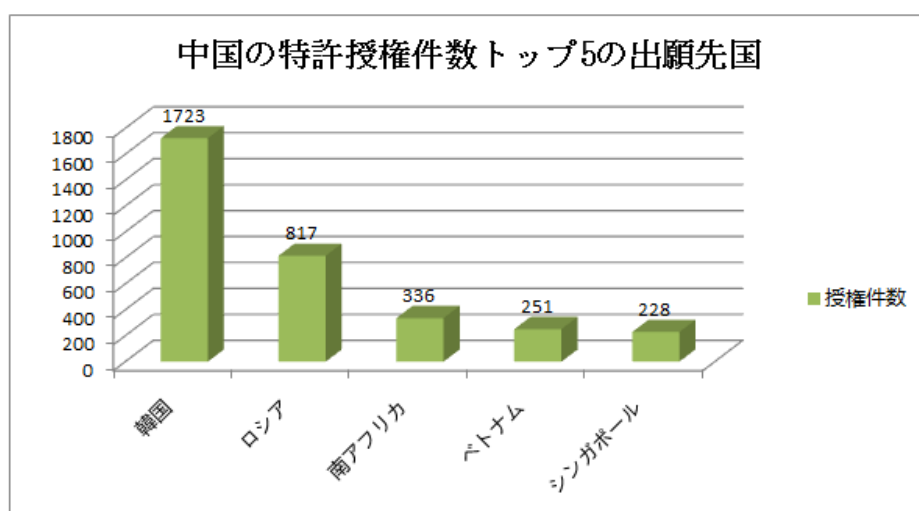
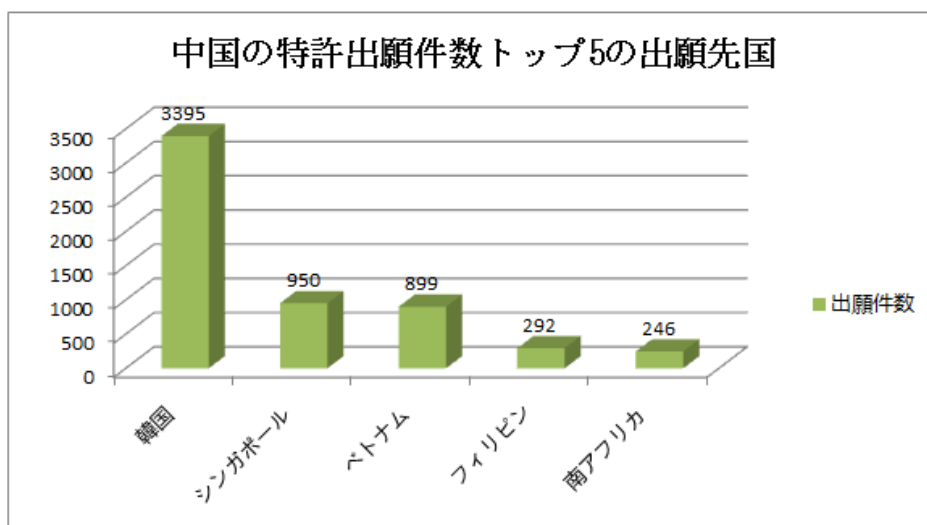
国家知識産権局、2020年「一带一路」沿線国における中国の特許ポートフォリオは逆成長の情勢

9月7日、国家知識産権局の公式サイトで知的財産権統計ブリーフィングが発表された。当該ブリーフィングによると、2020年の「一带一路」沿線国における中国の特許ポートフォリオは逆成長の情勢となっている。統計データによると、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたにもかかわらず、2020年の「一带一路」沿線国における中国の出願人の特許ポートフォリオは引き続き増加傾向を示しており、「一带一路」は次第に「イノベーションの道」になりつつある。

一、中国は沿線国における特許出願と授權の増加を両方実現

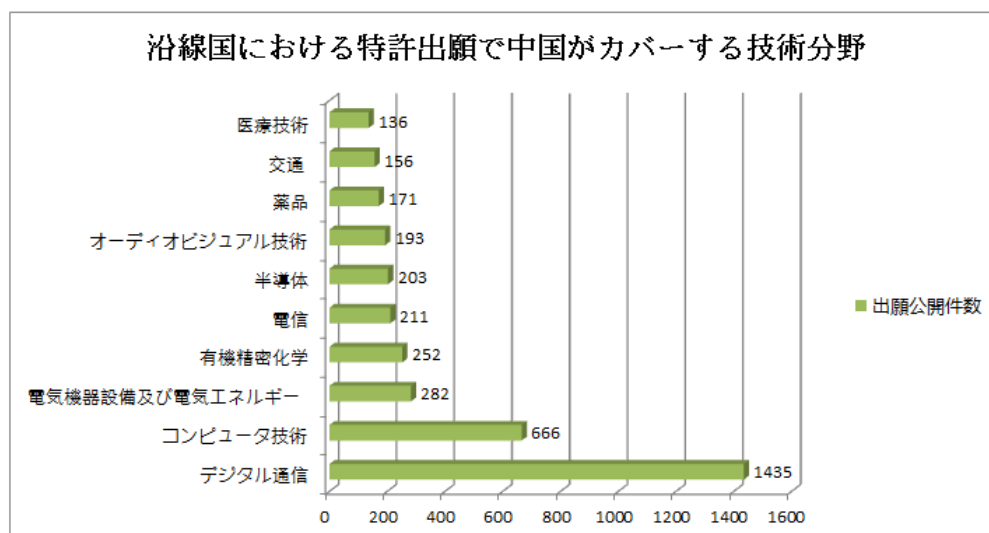


特許



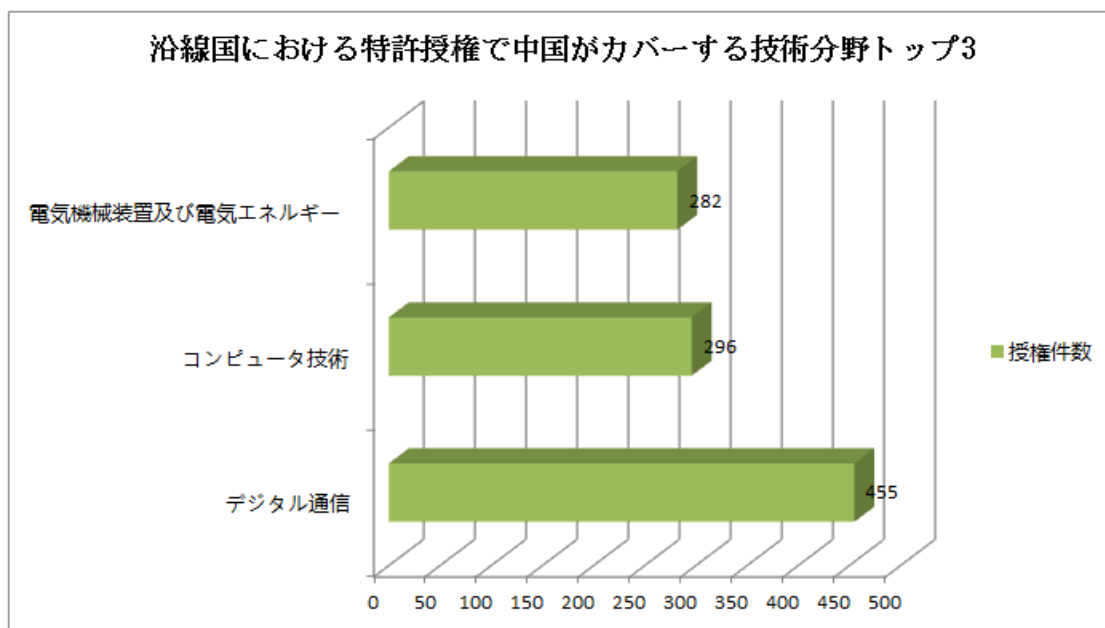
二、 デジタル通信分野が沿線国における中国の特許出願の技術分野でトップに

世界知的所有権機関が発表した 35 の技術分野の分類基準をふまえると、2020 年の沿線国における中国の特許出願は技術分野の全面カバーを実現した。



特許

また、中国は 2020 年の沿線国における特許授權でも技術分野の全面カバーを実現した。



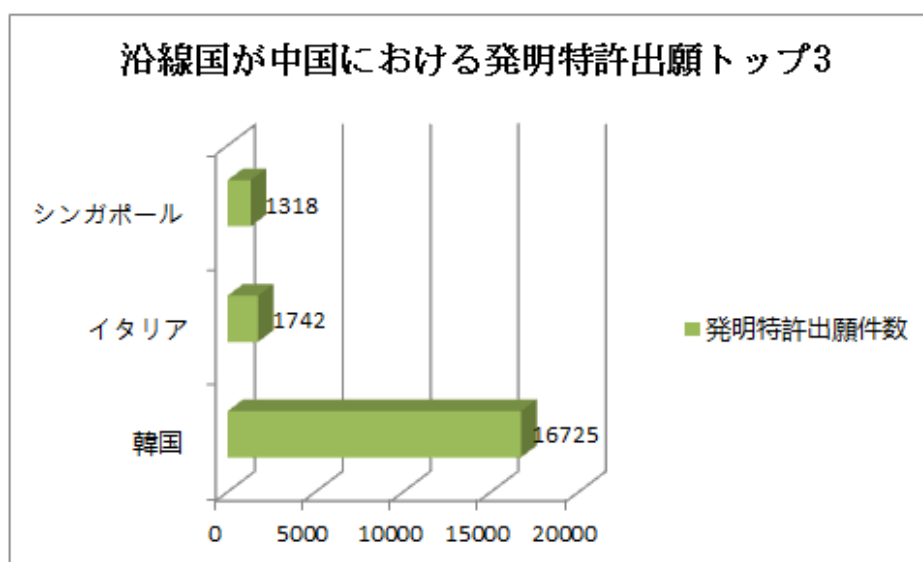
三、沿線国における中国の特許出願ポートフォリオのトップランナーは依然として通信分野に集中

順位	出願者名	出願公開件数
1	華為技術有限公司 (HUAWEI)	844
2	広東欧珀移动通信有限公司 (OPPO)	668
3	北京市商湯科技開発有限公司 (SenseTime)	150
4	百度有限公司 (Baidu)	147
5	中国電信技術研究院	140

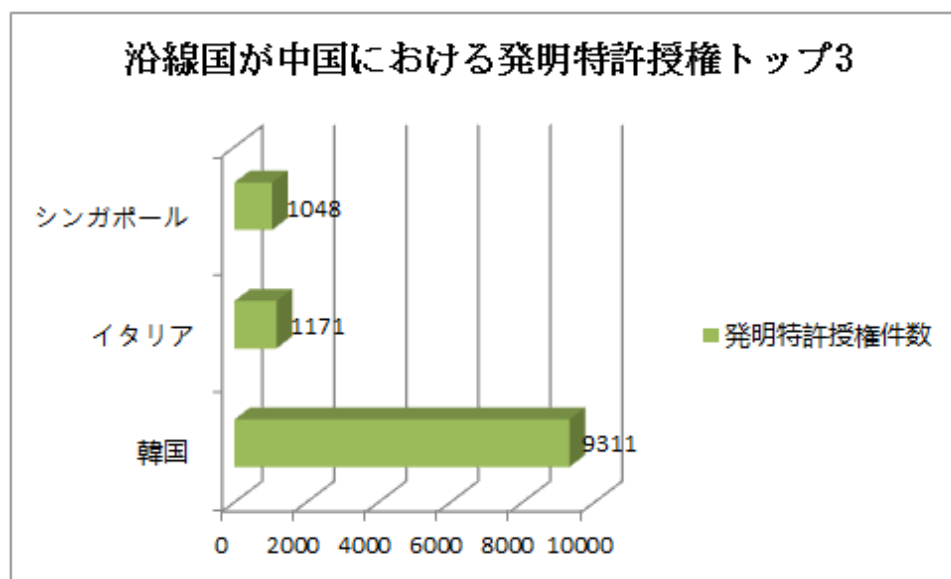
2020 年、沿線国における中国の特許出願公開件数トップ 5 出願人

四、「一带一路」沿線国は中国での特許ポートフォリオを強化

2020 年、「一带一路」沿線では、合計 74 ヲ国が中国で特許を出願し、合計 22,909 件の発明特許を出願し、同期比 3.9% 増となった。また、合計 71 の沿線国が中国で 13,131 件の発明特許権を付与された。



特許



国家知識産権局 より

知的財産権

「2021年グローバル・イノベーション・インデックス報告書」を発表

2021年9月20日、世界知的所有権機関 (WIPO) はジュネーブで2021年グローバル・イノベーション・インデックス (GII) を発表した。中国は昨年の進歩を続け、世界第12位へと浮上した。

報告書には、新型コロナウイルス感染症のパンデミックが人々の生命や経済に甚大な被害をもたらす中、世界の多くの地域で政府と企業がイノベーションへの投資を拡大しており、パンデミックを克服し、パンデミック後の経済成長を確かなものにするには、新しいアイデアが不可欠であるという認識が高まっていることが示されている。

科学的成果、研究開発費、知的財産出願数、ベンチャーキャピタル取引は、パンデミック前の力強いパフォーマンスをベースに2020年も引き続き増加した。特に、研究開発費はパンデミック関連の景気後退期において従来の景気後退期よりも堅調であった。

しかし、GIIの新機能「グローバルイノベーショントラッカー」によると、コロナ禍の影響は業界によってばらつきが大きいことがわかる。ソフトウェア、インターネットおよび通信技術、ハードウェアおよび電子機器産業、製薬、バイオテクノロジーなどのアウトプットがある企業は、イノベーションへの投資と研究開発を強化している。一方、パンデミック封じ込め策で深刻な打撃を受けたセクターの企業や、ビジネスモデルが人と接する活動に左右される企業（輸送や旅行など）は、支出を削減したことをトラッカーは示している。GII2021は、最先端分野における技術の進歩は非常に有望であることを示しており、新型コロナウイルスワクチンの迅速な開発は最も良い例である。

知的財産権

世界ランキング

1 スイス (2020年トップ)	11 フランス (12)
2 スウェーデン (2)	12 中国 (14)
3 アメリカ合衆国 (3)	13 日本 (16)
4 英国 (4)	14 中国香港 (11)
5 韓国 (10)	15 イスラエル (13)
6 オランダ (5)	16 カナダ (17)
7 フィンランド (7)	17 アイスランド (21)
8 シンガポール (8)	18 オーストリア (19)
9 デンマーク (6)	19 アイルランド (15)
10 ドイツ (9)	20 ノルウェー (20)

世界知的所有権機関 より

世界の経済圏のイノベーション能力とイノベーションアウトプットに関する GII の年間ランキングによると、持続してランキングの上位を占めているのはごく少数の経済圏で、ほとんどが高所得経済圏である。しかし、中国、トルコ、ベトナム、インド、フィリピンなど一部の中所得経済国が上位との差を縮め、イノベーションの状況が変化している。

スイス、スウェーデン、アメリカ合衆国、英国は引き続きイノベーションランキングをリードし、いずれも過去3年間トップ5にランクインしている。韓国は2021年に初めて GII トップ5に加わり、シンガポール (8)、中国 (12)、日本 (13)、中国香港 (14) の4つのアジアの経済圏がトップ15に入っている。

世界のイノベーションの地理的状況の変化は不均等

北米とヨーロッパが引き続き世界のイノベーション環境を大きくリードしている。東南アジア、東アジア、オセアニアのイノベーション・パフォーマンスは過去10年間で最も活発であり、リーダーとの差を縮めた唯一の地域となった。

中所得経済圏の中でトップ30に入っているのは、依然として中国だけである。2013年以来、中国は着実に GII の順位を上げ、世界的なイノベーション・リーダーとしての地位を確立すると同時に、トップ10に迫っている。中国には19のトップ科学技術クラスターがあり、そのうち深セン-香港-広州が2位、北京が3位となっている。

ブルガリア (35)、マレーシア (36)、トルコ (41)、タイ (43)、ベトナム (44)、ロシア連邦 (45)、インド (46)、ウクライナ (49)、モンテネグロ (50) が GII トップ50に入った。ただし、着実に上位との差を縮めているのはトルコ、ベトナム、インド、フィリピンのみである。中国以外では、経済規模が大きいこれらの経済圏に世界のイノベーション環境を一変させる潜在力がある。



世界知的所有権機関 より

知的財産権

グローバル・イノベーション・インデックスについて

GII は毎年発表されており、その中心として、パフォーマンスの評価指標を提供し、132 経済圏のイノベーション・エコシステムをランク付けしている。当該指数は世界中の官民のデータソースから 81 の指標を収集した豊富なデータセットに基づいており、イノベーションの定義が拡大したことにより、従来のイノベーション評価指標の範囲を超えている。GII は、研究開発施設や発表される科学論文にとどまらず、社会やビジネスモデル、テクノロジーなどの側面を含む、本質的により一般的で横断的なものとなっている。経済圏ごとに 1 ページのプロファイルを作成し、全ての指標について、他の全ての経済圏と比較したその経済圏のパフォーマンスを記録している。経済圏のプロファイルは、各経済圏の相対的なイノベーションの強みと弱みも強調する。

2021 年 GII は 2 つのサブインデックスの平均として計算される。イノベーション・インプットのサブインデックスは、革新的な活動を実現・促進する経済的要素を評価するもので、(1) 制度、(2) 人的資本と研究、(3) インフラストラクチャー、(4) 市場の洗練度、(5) 事業の洗練度の柱に分類されている。イノベーション・アウトプットのサブインデックスは、経済における革新的な活動の実際の成果を表しており、(6) 知識および技術の産出と (7) 創造的なアウトプットの 2 つの柱に分けられる。

このインデックスは、独立した統計監査を受けるために、欧州委員会の共同研究センターに提出された。報告書の全文は次のサイトからダウンロードできる。

www.globalinnovationindex.org